

沼津西ロータリークラブ



2025～2026 年度・クラブテーマ

「手を取り合い行動しよう」

会 長 杉山 真一 / 幹 事 富岡 由樹

第 1549 回 第 35 巻 08 号 2025 年 9 月 4 日

■■ 本日のプログラム ■■

ガバナー公式訪問 稲葉雅之 ガバナー

■9 月のプログラム■

1550 回 12:30	米山奨学生卓話 代 煜超(ダイ ユウチョブ) 様
09 月 11 日(木)	理事会④ 米山梅吉記念館
1551 回 12:30	イニシエーションスピーチ 山本啓子君
09 月 18 日(木)	アカガ ーデン迎賓館
09 月 25 日(木)	祝日週休会

例 会 場 〒410-0046 沼津市米山町 3-37
アクアガーデン迎賓館沼津
TEL 055-920-5200

事 務 局 久松会計事務所内
TEL 055-961-2050 FAX 055-961-2600
E-mail: numawestrc@gmail.com

例 会 日 毎週木曜日 12:30 点鐘

公共イメージ向上委員長 山本宜司 / 編集者 小野 洋子

出席報告 会員数 21 名

例 会	会員数	出席数	出席率
1549 回	21 名	17 名	80.95%

会長挨拶

● 会長 杉山真一 ●

本日は、ガバナー公式訪問です。先ほど 11 時より稲葉雅之ガバナーと小川地区幹事と共に会長幹事会を開催し、当クラブの現在の状況や活動計画等について意見を交換し、ご指導を賜りました。

さて今月は、ロータリーの特別月間の 1 つであります基本的教育と識字率向上月間です。

日本人にとって読み書きは呼吸と同じくらい自然な行為に思えても、世界には教育の機会に恵まれない人々が大半います。こうした人々は、仕事を得るために履歴書を書いたり、子どもの通信簿を読んだり、処方薬の説明書を読んだりすることができません。

世界には子供たちが基本的な教育を受けられず、成人が十分に読み書きできない国や地域があります。

そうした地域で基本的教育を提供し、識字率を上げれば、そのほかの諸問題の解決（貧困の削減、健康状態の改善、地域社会と経済の発展、平和構築など）の糸口をつかむことができます。「基本的教育と識字率向上」は、ロータリーの 6 つの重点分野の一つとなっています。

2000 年以来、読み書きのできない成人の数は減少しつつあります。しかし、世界の非識字人口はまだ 7 億 8,100 万人（世界の成人人口の 15%）だそうです。

重点分野として重視される理由は、①全ての女性が初等教育を修了すれば、妊婦の死亡率は 66%減少する。②読み書き出来る母親を持つ子供は、出来ない母親の子と比べて 5 歳以上まで生き延びる確率が 50%高い。③低所得国で全生徒が読み書きを習得した場合、1 億 7100 万人が貧困から抜け出すことができる。これは全世界の貧困の 12%に相当する。

基本的教育と識字力は、貧困問題や保健上の課題に取り組むために必要となり、地域社会の発展を導き、争いのない世界を実現するには欠かすことのできない要素となります。ロータリーでは、「基本的教育と識字率向上」の重点分野に該当する数多くのプロジェクトが実施され国連ミレニアム開発目標を力強くサポートしています。識字率は世界全体で向上しており、教育における男女間の格差も縮小してきていますが、今後も状況を改善していくにはさらなる支援が必要となります。

以上、本日の会長挨拶とさせていただきます。

●欠席者(4 名)

羽切勝利、下原満知子、山本宜司、渡邊勝也

●ゲスト

1.国際ロータリー第 2620 地区

稲葉雅之 ガバナー:伊東西 RC

2.国際ロータリー第 2620 地区 静岡第 2 グループ

芹澤 豊ガバナー補佐:裾野 RC

3.国際ロータリー第 2620 地区

小川嘉洋 地区幹事:伊東西 RC

4.国際ロータリー第 2620 地区 静岡第 2 グループ

小野 靖ガバナー補佐事務局長:裾野 RC

●スマイル報告

1.杉山真一、2.山田和典、3.本村文一、4.鈴木和憲

:稲葉ガバナー、芹澤ガバナー補佐、本日は、公式訪問、ありがとうございます。宜しくお願い致します。

5.下田朗弘:所用につき、早退させていただきます。

幹 事 報 告

1. 他クラブの例会変更等

①沼津 RC 9/26(金) 休会 MU:無

②富士宮西 RC 9/12(金) 会場変更 MU:無

9/19(金) 祝日週休会 MU:無

2. 報告・連絡事項

①次週は、米山梅吉記念館にて移動例会です。

②次週は、例会後、理事会がありますので、各理事は提案資料の提出をお願いいたします。

③10/22(水) 沼津 4 ロータリークラブ合同例会の出欠席をご記入ください。

がバナー公式訪問

2025-26 年度 RI 第 2620 地区 ガバナー 稲葉 雅之
(伊東西ロータリークラブ)

本年度ガバナーを拝命しました、伊東西ロータリークラブの稲葉雅之です。

2025-26RI 会長予定だったマリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ氏の予期せぬ辞任発表があり、フランチェスコ・アレツツォ氏(イタリア、ラグーザ・ロータリークラブ所属)が新たに会長に選ばれました。『UNITE FOR GOOD(よいことのために手を取りあおう)』は会長メッセージとして継承されますので、空間軸と時間軸において、先にロータリアンから手を差し伸べましょう(The First to Act・Rotarians)。また、『革新』『継続性』『パートナーシップ』が成長のための【不可欠な3つの柱】と位置づけられ、1.「会員増強の重要性」2.「継続性の重要性」3.「パートナーシップの力」

4.「次世代へつなぐロータリー」をポイントとして掲げています。

今回から RI 会長の単年度テーマはメッセージという形に変わり、従来から親しむ『ビジョン声明』が普遍的なテーマのように重きを置かれたということです。

今年の地区大会は12月に伊東市と伊豆市で開催され、国際大会は2026年6月に台北で開催されます。多くのご参加をお待ちしております。

さて、【奉仕、ある視点】と題して、様々な角度からそのあり方を考えていきましょう。

地区の財政的現状として、「米山奨学生 世話クラブ希望数 > 奨学生数」「青少年交換プログラム 派遣人数の低迷」「地区賦課金値上げ」等の課題があり、活動が抑制されている面も見られます。活動資金の改善には収入の増加や支出の減少が必要ですが、会員減少傾向や物価高において、簡単ではありません。

DX や組織のスリム化の推進、「12 のテスト」※の推奨、「クラブ・サポート・ミーティング」を行ったり、発想を変えてみたりと、何とか「奉仕の成果を落とさず効率化を図りたい」ものです。

(視点①)『ロヒンギャ問題』～『身近な平和啓発』

・ミャンマーへの支援件数は多いものの、より深刻とも思われる、迫害され国を追われたロヒンギャ族への支援には、やや及び腰の実態があるようです。奉仕の優先順位を考えさせられます。

・軍事政権によって危険な状態にある現在のミャンマー人たちは、かつてのロヒンギャの人たちの人権を思うことができるだろうか。就労や実習で多くのミャンマー人が来日した今、日本のロータリアンの抱く平和について、共感の輪を広げることはできないでしょうか。

(視点②)『会社でワクチン』 「ポリオ根絶あと少し」

・寄付増額 ・周知啓発 ・貢献実感 ・参加基盤拡大 一石四鳥となるか。

(視点③)『重点分野の優先順位』

7つの重点分野をよく見ると、「平和構築と紛争予防」に目が留まります。

他の分野の全てにおいて、「平和でありさえすれば」、奉仕活動は効率よく進み、課題は改善するでしょう。紛争のために十分に活動ができない。

とにかく「紛争のない平和な世界が望まれる」ということです。

<入会してよかった>

「ロータリーの例会は、人生の道場。人づくりの修練の場である」(米山梅吉)

「よいことのために、親睦からの、手を取りあって、ロータリアンから、笑顔の奉仕を、はじめましょう。」

※「12 のテスト」 ①【DEI】②【奉仕効果】③【会員増強】④【真の楽しさ】⑤【奉仕の優先順位】⑥【委員会間連携】⑦【DX 推進】⑧【寛容の精神】⑨【親睦からの笑顔で奉仕】⑩【ロータリーカード】⑪【3 Y E A R S】⑫【アンチハラスメント】

